



# かわらばん

良城小 URL: <http://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/>

良城小学校  
学校だより1月号  
児童数802名  
令和2年1月8日

## 種を大きく膨らませる一年に

校長 増野 淳一

保護者のみなさん、地域のみなさん、明けましておめでとうございます。今年は大変あたたかいお正月で、気持ちよく新年を迎えることができました。8日からは、3学期が始まります。気持ち新たに、吉敷の宝である子供達を共に育ててまいりましょう。

さて、今年の干支は庚子（かのえね）です。60年に一度、十干（じっかん）の中の庚（かのえ）と、十二支（じゅうにし）の内の子（ね）が組み合わさるこの「庚子」という年の特徴を調べてみると、本校の今後を考える上でもとても大切な年であることが分かりました。

庚（かのえ）は、十干の7番目で、成長を終えた草木が次の世代を残すために花や種子を準備する状態、一方、子（ね）は、十二支のスタートで、固い種に押し込められていた生命が、新たに芽生えていろいろな方向に育ち始める状態だそうです。

この2つが組み合わされた「庚子」は、「過去の成果から引き継ぐべきものを維持しつつ、新たな環境や局面に向けて体制を整えていくと良い年」だそうです。前回60年前の庚子であった1960年（昭和35年）は、日米安保条約が改定された大きな節目の年でした。ただし、新しいことが始まる時は、不安や悩みとの戦いも同時に発生します。新安保条約制定の時は安保闘争が全国で激化しました。そんな不安に負けないようにするためにも目標をしっかりと共有し、ぶれない姿勢で進んでいくことが大切です。

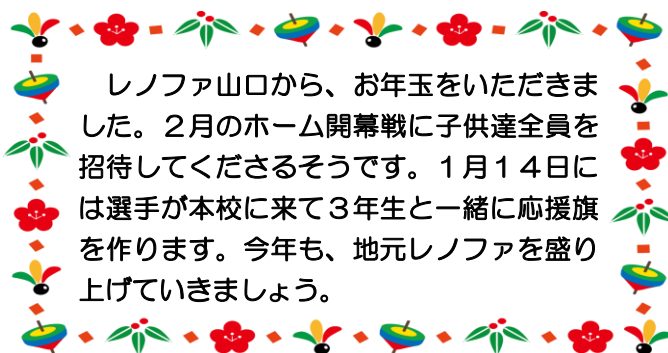
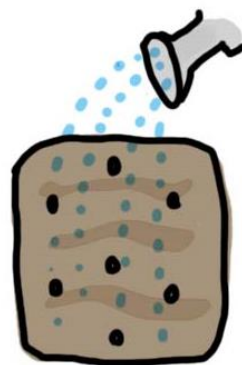
この「庚子」という年を良城小に当てはめてみます。

本校はこれまでの取組の成果が継続され、大変落ち着いた素晴らしい学校です。ただし、時代はどんどん変化し続けており、それに伴って学校教育自体も深化していかなければ、子供達がこれからの時代を生き抜くことが難しくなります。そのため、本県では、地域とともにある「コミュニティ・スクール」こそがこれからの学校の姿であるとし、県を挙げて地域連携教育を進めてきました。「良城（吉敷）だからこそその教育」もまさにこれを中核に据えるものであり、この2年間、より多くの取組を進めてまいりました。

皆様のご支援により、少しずつ手応えを感じてきましたが、本校におけるこれらの取組は、まだまだ「種」の状態であり、今後、昨年設定した学校目標が達成できる学校となるかどうかは、庚子の今年がとても大切な年だと思います。

私に残された残りの3ヶ月の間に、良城だからこそできること、やらなくてはならないこととして蒔いてきた種をもう少し温めて、4月からの庚子の年度へバトンを引き継ぎます。

ご家庭でも、地域でも、本年も良城（吉敷）だからこそその学校教育、吉敷地域とともにある学校づくりへのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。一緒に種を大きく膨らませてまいりましょう。



レノファ山口から、お年玉をいただきました。2月のホーム開幕戦に子供達全員を招待して下さるそうです。1月14日には選手が本校に来て3年生と一緒に応援旗を作ります。今年も、地元レノファを盛り上げていきましょう。